

平成30年度一番茶実収報告

京都府農林水産技術センター
農林センター茶業研究所

1. 摘採日

仕立て法	本年	前年	前5か年
自然仕立て	5月 1日	5月12日	5月 7日
弧状仕立て	4月24日	5月10日	5月 7日

2. 生葉収量 (kg/10a)

仕立て法	本年		前年		前5か年平均	
	収量	指数	収量	指数	収量	指数
自然仕立て	705.8 ± 114.0	107	792.2 ± 65.6	120	661.4 ± 66.3	100
弧状仕立て	282.6 ± 65.9	83	431.0 ± 93.5	127	340.4 ± 80.5	100

○指数は前5か年平均を100とした場合の比

○弧状仕立てについては、摘採時にわずかに降雨が認められた

3. 百芽重 (g)

仕立て法	本年		前年		前5か年平均	
	百芽重	指数	百芽重	指数	百芽重	指数
自然仕立て	78.2 ± 13.1	155	55.5 ± 2.0	110	50.3 ± 6.3	100
弧状仕立て	32.4 ± 5.1	61	50.1 ± 15.5	94	53.2 ± 11.4	100

4. 新芽数 (本/m²)

仕立て法	本年		前年		前5か年平均	
	新芽数	指数	新芽数	指数	新芽数	指数
自然仕立て	364.2 ± 94.2	64	535.6 ± 126.6	94	567.9 ± 73.2	100
弧状仕立て	1198.3 ± 461.5	91	1116.7 ± 325.0	85	1315.7 ± 273.9	100

○自然仕立ての数値は、20cm幅帯摘みの新芽数

5. 出開き度 (%)

仕立て法	本年	前年	前5か年平均
自然仕立て	53.2	71.1	49.9
弧状仕立て	76.6	80.0	63.6

6. 概要

(1) 摘採日

自然仕立て園、弧状仕立て園ともに萌芽期が平年より早く、4月上旬から4月下旬の平均気温が平年より高く推移したため、本年の一番茶摘採日は、自然仕立て園では、前5か年平均より6日早い5月1日、弧状仕立て園では、前5か年平均より13日早い4月24日となった。

(2) 生葉収量

自然仕立て園では、10a当たりの生葉収量は705.8kgで前5か年平均より多かった。

弧状仕立て園では、282.6kgで前5か年平均より少なかった。なお、弧状仕立て園では、摘採時にわずかに降雨が認められたが、ほぼ影響はなかった。

(3) 病虫害の発生状況

当所におけるフェロモントラップによる越冬世代の誘殺状況は、チャノコカクモンハマキでは、誘殺数は平年比多く（平年比129%）、誘殺盛期は5月第2半旬と平年並だった。チャノホソガでは、誘殺数は平年比少なく（15%）、誘殺盛期は4月第1半旬と平年比早かった。

作況園では、特に問題となる病虫害の発生はなかったが、所内の被覆茶園で摘採終盤にチャノナガサビダニの発生が見られた。また、現地において青枯れ等の寒害が見られた。

(4) 茶市場の出荷状況

6月20日現在の全農京都茶市場への出荷量は、対前年度最終実績比で、てん茶で約100%、揉み茶で80~90%となっている。

手摘みてん茶	： 108.6%	はさみ摘みてん茶	： 100.1%
手摘み玉露	： 123.1%	はさみ摘み玉露	： 84.9%
煎茶	： 90.3%	かぶせ茶	： 96.6%